

## 要 約

*p*-シメンの初期生活段階毒性試験をヒメダカ(*Oryzias latipes*)を用いて実施した。

試験は、1試験区当たり60個体の受精卵を用い、5濃度区[2.00、1.00、0.500、0.250及び0.125 mg/L(公比2.0)]、助剤対照区及び対照区(各試験区当たり4連)、水温24±1℃、40日間(ふ化後31日間)試験液を連続的に供給する流水式で暴露を行った。この間、卵のふ化数及びふ化日数、発生異常数、ふ化後の生存数、毒性症状、生存した稚魚の体重及び体長について観察または測定を行った。これらは被験物質の影響を判断するための影響指標とした。また、試験液中の被験物質濃度及び水質についても測定した。

その結果、測定した試験液中の被験物質濃度は設定濃度の58.4～80.0%であり、設定値の±20%の範囲を超えていた。従って以下の試験結果は測定濃度に基づいて算出した。

*p*-シメンはヒメダカに対し、胚期では全ての影響指標(ふ化率、ふ化日数及び発生異常率)に関して、本試験の濃度範囲では対照群と比較し、統計学的に有意な影響を及ぼさなかった。仔稚魚期では、1.44 mg/L区でふ化後の生存率及び成長(体長及び体重)に関して有意な影響を及ぼし、また毒性症状も顕著に認められた。

これらの結果から、本試験における*p*-シメンのヒメダカに対するLOEC(最小影響濃度)は1.44 mg/L、NOEC(最大無影響濃度)は0.690 mg/Lとした。